

今日のみことば

□ 5月21日(日) ヘブル 4章

力ある神のみ言葉、もし私たちが不信仰と不従順のために躊躇しているなら、そのことを私たちに示してくださる。主は時機にかなった恵みと助けをくださるお方です。

□ 5月22日(月) ヘブル 5章

キリストはユダヤ人によって尊敬を受けるべき大祭司であった。キリストは私たちの罪を背負われたお方です。神が苦難によって教えられようとしていることを学ばねばなりません。

□ 5月23日(火) ヘブル 6章

キリスト者となってから少しも進歩しにのほ問題です。だから「キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進むではありませんか」と勧めます。

□ 5月24日(水) ヘブル 7章

メルキゼデクについては創世記14:17-20と詩篇110篇の記事を読むこと。永遠の大祭司であるキリストは、私たちに罪から贖うためにご自身をささげられた。

□ 5月25日(木) ヘブル 8章

私たちは罪人であるため律法を守ることに完全に失敗した。律法によって罪人であることを示されたが、しかし神は私たちに新しい契約を与えられた。あわれみと赦しの契約です。

□ 5月26日(金) ヘブル 9章

古い契約の民が神を礼拝するための規定は、契約の方の中に明記されている。キリストは大祭司として、民の罪のためにささげられた犠牲の血を持って至聖所に入られた。

□ 5月27日(土) ヘブル 10章

旧約時代の律法といけにえは罪の究極の贖いではなかったのに対し、キリストのいけにえが究極的な、ただ一度だけのものであったことが強調される。

ろば No. 1816

2017年 5月21日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

詩篇 127:1

主御自身が建ててくださるのでなければ／家を建てる人の労苦はむなし。主御自身が守ってくださるのでなければ／町を守る人が目覚めているのもむなし。

パウロの「わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶えない痛みがあります。わたし自身兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています。」(ロマ9:2-3)との言葉は、いつも私の心に突き刺さっている言葉です。そしてつくづく弱さを覚えさせられています。

私たちは家族のために何ができているか、いつも心の中にあるものです。聖書が私たちに伝えるそれは、このエペソ書という言葉です。私は時代遅れの言葉だと退けるのではなく、私はしっかりと聞くべき言葉だと思っています。そこにはイエスが求めておられる、大切な教えがあるからです。イエスが

私たちに与えられた大切な戒めをご存じでしょう。

イエスは家庭をお持ちではありませんでした。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし人の子にはまくらする所がない」(マタ8:20)と言われました。そのイエスが、心安らされた家族がありました。マルタ、マリヤ、ラザロの家族です。その家族に一つの事件がありました。マルタがイエスに、マリヤの行動について苦情を言ったことがあります。そこで言われたイエスの言葉は、私たちの間に波紋を起こしたのではありませんか(ルカ10:38-42)。その一言とは「必要なことはただ一つだけである」との言葉です。

マルタがイエスに訴えたマリヤに対する苦情は、十分に理解できるもので、責められるものではありません。イエスの返答も、そのような意味での言葉ではなかったと理解します。イエスはマルタたち家族をほんとうに愛しておられました。だから心から神に愛されるひとり一人であってほしいと願っておいででした。その思いが込められたイエスの言葉なのです。

この出来事の前に一つの事件がありました。イエスが「よきサマリヤ人」をお話しをされた出来事です(ルカ10:25-37)。そこでイエスは「行って、あなた方も同じようにしなさい」と言われたのです。私はそれこそが、イエスが様々な出来事や言葉の中で私たちに伝えたくてたまらない想いであろうと思っているのです。その想いはしっかり弟子たちに受け継がれていましたそして直弟子ではありませんが、パウロのうちにもそれはしっかりと受け継がれていました。それが今日、私たちが読ませていただく聖書のみ言葉だと思っています。私たちは家族みんなで神を礼拝出来ることを最高の願い、喜びだとしています。そのために私たちは、イエスに倣って生きなければならないのです。パウロがここで「キリストの対する畏れを持って、互いに仕え合いなさい」と冒頭で言いました。私たちはキリストの身体の一肢体です。互いがしっかりとキリストにつながっていなければ、身体は機能をしません。私たちが心得ていることです。私たちがしっかりそのことを踏まえて、み言葉に生きるときに私たちの願いがかなえられるのです。パウロはそのためであるならすべてを捨てると言いました。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
使徒言行録9:36-43 ドルカスー多くのよい行いをした

「ヤッファにタビタと呼ばれる婦人の弟子がいた。彼女はたくさんの善い行いや施しをしていた」とある婦人に起こった出来事です。彼女はその地域の人たちからは慕われていた女性であったようです。ここにはほんとうに短い文章での紹介に過ぎませんが、彼女が病気で亡くなったときに、多くの人たちが寄ってきて、泣きながら親切にされた様々の、彼女の行動に、感謝を勝ってくれました。

実に彼女は、キリスト信仰に生きて、実践の面でよく活躍して、よい評判と人々からの友情を得ていました。弟子たちはペテロの来訪を求め、ペテロは「ひざまづいて祈り、遺体に向かって「タビタ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペテロを見て起き上がりました。生き返ったドルカスを見て、多くの人たちがイエスを信じました。彼女の主にある行為は、キリスト者以外の人たちに主を信じる機会を与えました。



Read God's Word.